



TERRAとも

NPO 法人 地球市民友の会

第 11 号

2014(平成26)年 1月
NPO 法人地球市民友の会
藤沢市高倉 258 東勝寺内
☎0466-44-7570

FAX : 0466-44-0452 E メール : npo.terratomo@gmail.com HP : <http://www.terratomo.com>

新年おめでとうございます

皆様には、日頃「TERRAとも」に対し多大な御理解御支援を頂きまして、篤く御礼申し上げます。

昨年、来日外国人は過去最高の 1125 万人となりました。

その中で、お客様としての来日者には「おもてなし」ですが、「出稼ぎ」として来ています外国の方にはどうでしょうか。

同じ町内に隣人として、多くの「出稼ぎ」外国関係者が住んでおります。

「来てよかった日本 住んでよかった湘南」になります様、今後とも倍旧のお力添えを賜りたく御願い申し上げ、皆様にとっても外国関係者にとっても良き年で有ります様お祈り申し上げます。

寒中、ご自愛下さい。



平成26年 正月

NPO 法人 地球市民友の会

理事長 黒澤宗剛



「この1年元気だったよ!」「来年もいい年でありますように!」

～国籍を超えて広がる、つながる交流の輪～

2012年12月29日(日)、恒例の‘年末国際交流会’が東勝寺において開催された。地域に暮らす外国籍の人々(ペルー、アルゼンチン、ブラジルなど南米出身につながる人々、ベトナムや中国などアジア出身の人々)、地球市民友の会の会員やその関係者、寺の関係者など130余名が参加、1年間の互いの無事を確認し合い、新しい年を迎える鋭気を与え合う、そんなコミュニケーションの輪が広がった交流会であった。参加者はそれぞれ一品、料理を持って集まった。壁際に並べられたテーブルには、国際色豊かな多彩な料理が置かれた。また、会を盛り上げてくれた出演者の熱演も素晴らしかった。フォークフレンズ(ギターの演奏と歌)、ソウルヴィータ(ヴァイオリンとギターと歌)、Sakura Latino、アレナイマール(ラテン日系楽団の歌と演奏)。



今年も猛暑、竜巻、台風と大雨などの大きな自然災害に見舞われた。全体として経済状態は上向き傾向になってきているものの、より住みよい地域を作るための課題や乗り越えなければならないハードルは相変わらず次々に用意されているようだ。しかし‘行く年来る年’の大きな節目の時期に開かれた年末国際交流会は、美味しい料理や飲み物をいただきながら、素晴らしい演奏や歌に心弾ませ、会話に花が咲いた。フィナーレが近づくと会話の輪が踊りの輪に変わり、別れを惜しむかのように会場は熱気に包まれた。国籍を超え、老若男女が一同に会して交流を深め、新年に向かってパワーを充電できた会であった。

この会を開催するに当たりご協賛・ご協力くださいました皆様に、また学習支援教室で子どもたちに教えている文教大学HOPの学生さんはじめ、企画、準備、運営等縁の下の方の力持ち的役割を担っていただきました実行委員の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

第10回ふじさわ国際交流フェスティバルに参加

11月10日（日）、「外国人と共に生きる地域社会を目指して」をテーマに、藤沢駅サンパール広場において、国際交流に関わっている団体が一同に会して盛大に開催された。地球市民友の会は「ペルーやアルゼンチンの食品紹介と販売。NPO 法人地球市民友の会の紹介と日本語教室のPR」を行った。今回は、市内にいくつかある日本語教室を持つ団体の案内と外国人相談を受け付けるテントが設置された。日本語友の会のPRの良い場となった。地球市民友の会のテントには、チョリソーやバーベキューチキンの美味しい匂いに引き寄せられた大勢の人々の行列ができた。

＜従事者＞ ・ペルー料理（ファーナ、ジセラ、ロサリオ）・アルゼンチン料理（ダニエル、イザベル）
・HOP文教大学生（高橋、石井、伊藤、今井、小林、前田、山田、高橋、宝清）
・NPO（黒澤、今福、内田、望月、澤野、高橋）

ふれあいコンサート

2013年11月30日

一枚で2度楽しめた音楽の夕べ！



NPO地球市民友の会としての初コンサートを東勝寺本堂で開催した。100名を超える入場者（含む外国籍市民）は中国琵琶の奏でる中国や日本の音楽、ケーナとチャランゴの奏でる南米の音楽とトークにすっかり魅了されたふれあいコンサートであった。



一部 中国琵琶の調べ
（陳麗華、大島春生 Kb）

二部 ケーナ&チャランゴ
（中村美子、寺澤むつみ）

MINTOMO交流会に参加

12月7日（土）、「いろいろな国のお友だちと楽しいイベントをつうじて、交流しましょう」をテーマに、湘南台公民館で開催された。この会はMINTOMO交流会実行委員会主催、藤沢市平和国際課、湘南台公民館、文化センターこども館共催で毎年実施されてきたもの。実行委員会会長はNPO理事でもある望月千春さん。地下1階のホールや部屋では、おもちゃつき、工作、マールリング、和太鼓の演奏、ラテン湘南の演奏と歌などが行われ、多くの来場者が様々な催しを楽しみ交流の輪が広がった。当NPO日本語友の会は



「もちつき」を担当した。

<従事者> 石渡、小貫、神山、高橋、澤野

「おせち」とは？

正月といえばおせち料理。“めでたさを重ねる”という意味で縁起をかつぎ、重箱に詰めて出されるお祝いの料理ですが、中身は地方や家庭ごとに様々です。おせちとは本来、暦の上の節句のことをさす言葉で、その時食べる料理をおせち料理と呼んでいた。現在では一番目の節句にあたる正月の料理を表す言葉として使われています。「おせち」とはお節供（おせちく）の略で、その年の豊作を祈って食べる料理や、武家の祝い膳、新年を祝う庶民の料理などが合わさってできた料理です。また、三が日は主婦を家事から解放するという意味も込め、保存の効く食材が中心のものになったとも言われています。おせち料理は平安時代に宮中で行われていた「お節供」の行事に由来していますが、今では日本の文化に根付いた伝統的な食文化として受け継がれています。

<おせち料理に込められた意味>

・【黒豆】まめ（まじめ）に働き、まめ（健康で）に暮らせるように ・【数の子】たくさんの卵があるところから、子孫繁栄を祈願して ・【田作り】豊年豊作を祈願して ・【海老】腰が曲がるまで丈夫にという長寿を祈願して ・【きんとん】「金団」と書き、黄金に輝く財宝に見立て豊かな年を祈願して ・【かまぼこ】日の出を象徴、紅は慶び、白は神聖の意味して ・【伊達巻】華やかさ、派手なこと。巻物に似た形から知恵が増えるようにとの願いを込めて

メキシコからのメール#2

Feliz Año Nuevo! フェリス アニョ ヌエボ!

新年明けましておめでとうございます! マリンビストの古徳景子です。年女の今年は、昨年以上に走り駆け巡りたいと思います。皆さま、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

去年は国際マリンバコンクールのデュオ部門でチアパス州立芸術科学大学 (Universidad de Ciencias y Artes de Chiapas) の同僚である Roberto Palomeque 氏と共に優勝する事が出来ました。私達にとって大変光栄な賞であり、メキシコのマリンバ発展につながる良いステップになると確信しております。

この度の寄稿文 No.2 は ～コンクールへ挑戦! ①～をお伝えします。

さかのぼる事、12年前の2001年7月。私が東京芸術大学3年生在学中に、自分への挑戦。そして世界のレベルを知るためにベルギーで行われる世界マリンバコンクールに参加しました。参加国は、ヨーロッパ全土、中国、韓国、日本で、総勢100名以上でした。その中、私はヨーロッパに行くのも初めて、海外でマリンバを演奏するのも初めて、英語は片言しか話せず、ただただマリンバを名のある審査員に聴いて頂きたい一心で、日本を旅立ちました。飛行機の中は、不安な事だらけで、ベルギーの空港に着いたらどうやって会場まで行くのか? をガイドブックで何度も読み返した。また暗譜した曲も忘れない様に、譜面を読み返えしたり、メロディーを歌いあげる事を想像していたので、全く眠れませんでした。

ベルギー到着後は、飛行機の中での予習が功を奏し、問題なく会場の St-Truiden に到着しました。しかし駅から宿泊施設までの行き方がわからない! どうしたものかとキョロキョロしていると、大き



なトランクを持ちタクシー運転手と話をしている日本人を発見。流暢な英語を話す女性は、このコンクールで4位を獲得された高田直子さん。現在はカリフォルニアを拠点に活動をされている。一緒にタクシーで会場まで行きつく事が出来ました。

到着までが大きな冒険だった私は、辿りついた事に安心し、緊張の糸がぷつんと切れてしまいました。7名の審査員の前でもほとんど緊張することなくいつも通りに演奏する事が出来ました。2次審査も問題なく進む事が出来たのですが、セミ・ファイナルの時、忘れもしないハプニングが起きました。ズビコビッチ作曲「Ultimatum I」というフォルテ（音量）を極限まで追求する、情熱的で力強い曲を演奏中、曲の3分の2に達した時点で、マレット（マリンバのばち）の毛糸が一音一音弾く度にほぐれてしまい、まるで体操のリボンを扱っているようでした。それまでは思うように表現出来ていたのですが、このまま演奏させてほしい！と心で祈りながら曲を進めていたところ、審査委員長から『一度演奏をとめて、新しいマレットに取り変えなさい』との指示が出てマレットを変えました。動揺は隠しきれず、今度はその変えたマレットを落としてしまったのです。

コンクールでは、音のミスや楽譜を忠実に表現する事を強く求められるので、その時点で決勝（ファイナル）には行けないなあ～と思った。こうなったら！楽しく弾ききるしかない！と、残された2曲はふっきれた気持ちで演奏することが出来ました。演奏後、会場にいらした同じ受験者から、そして審査員からも大きな拍手を頂きました。

演奏後、一人、悲壮感をただよわせながら外で休憩をしている時に、審査員の一人である、ネイロサウロ氏が「絶対にあなたの音楽性は素晴らしいから、決勝にいけるよ！」と声をかけて下さいました。半信半疑のまま、ファイナリストの名前が貼り出され、名前を発見した時は思わず日本語で「あったー！」と叫んでしまいました。

さていよいよ決勝の演奏です。コンクールの為に練習した全10曲の中でも、特に力を入れて練習してきた「マリンバ交響曲第2番」とソロの2曲。セミファイナルでの失敗がないように、マレットを丹念にチェックして臨んだ決勝は自分の持てる力を出しきりました。そして全てのファイナリスト5人の演奏が終わり、結果発表となりました。5位から順に名前が呼ばれて、残るのは2位か1位。優勝出来るかなあ？と期待と胸を膨らませながら待っていましたが、2位で私の名前が呼ばれました。海外初めての演奏であり初めての世界のコンクールで、このような賞を頂けた事に嬉しさも覚えましたが、正直、1位をとれなかった悔しさの方が強く、なんともほろにがい思い出となりました。そのほろにがい想いを抱えたてから12年後の2013年、4月。ロベルトの何気ない一言でまたベルギーのコンクールに行く事になるなんて・・・

それでは次回は～コンクールへ挑戦！②～をお届けいたします。

Hasta Luego!（またね!）

2014 TERRAともふれあいコンサート 4月26日(土)18:00

東勝寺に響け！

メキシカン & クラシック マリンバ

出演：古徳景子 Roberto Carlos Palomeque Cruz 他